パブリックコメント・住民説明会を実施します

町立幼稚園ではこれまで、開園時間の延長、土曜日や春休み期間の預かり保育の実施、３年保育の実施など、保護者のみなさまから教育・保育サービスの充実を求める声をいただいていました。

町では、そのような保護者の声への対応や幼児教育環境の充実を図るための検討を進めており、この度、「西原町立幼稚園の認定こども園移行に関する基本方針（案）」を策定しました。

その内容について、次のとおり、パブリックコメント及び住民説明会を実施します。

パブリックコメント（住民意見募集）

期間　令和３年１０月４日（月）～令和３年１０月２６日（火）

※「基本方針（案）」や意見提出方法などの詳細については、町ホームページをご確認ください。

▲町ホームページはこちらから

住民説明会

日時　令和３年１０月１２日（火）

会場　西原町民交流センター　さわふじ未来ホール

※住民説明会については、新型コロナウイルス感染対策を十分に講じたうえでの開催としますが、緊急事態宣言の発令など感染状況によっては、開催を中止し、説明資料を町ホームページへ掲載するなどの対応になる可能性がありますので、ご了承ください。

お問い合わせ　**企画財政課　チャレンジプロジェクトチーム　☎０９８－９４５－４５３３**

文化財コラム

内間御殿の屋根瓦

国指定史跡※1内間御殿の中心的祭祀施設である東江御殿の敷地には、現在トタン葺きの拝殿（写真①）が建っています。そこは、戦前に撮影された白黒写真から木造瓦葺きの神殿が建っていたことがわかっています。

歴史資料によると、東江御殿が最初に整備されたのが一六六六年頃で、その時は二※2間×三間の茅葺きの神殿が建てられます。そして、一六八九年には神殿を※3樫木で改修し、瓦葺きにしたとあり、これが東江御殿に瓦が葺かれた記述の初見となります。その後、東江御殿では幾度かの整備が行われますが、屋根の改修に言及する記述は確認されていません。

しかし、一六八九年に葺かれた屋根瓦は、沖縄戦で神殿が焼失するまでの約二五〇年間そのままの形で残っていたとは考えにくいことから、その間には少なくとも修繕等が行われていたことが推察されます。

ところで、内間御殿ではこれまでに赤色瓦と灰色瓦の破片が採取されています（写真②）。また、神殿跡地周辺の発掘調査では、戦中・戦後と推定される土層から、建物が焼失した際に屋根から崩落したと考えられるたくさんの赤色、灰色の瓦の破片が出土しています。近世期の琉球王国で製作されていた瓦は、これまでの調査研究から、赤色の瓦が作られる前には、灰色の瓦が作られていたと考えられています。また、赤色の瓦が作られるようになった後も、建物の屋根には灰色の瓦が使われ続けていた事例があるようです。

これらのことを考えると、戦災を受ける直前の東江御殿神殿の屋根は、新旧の瓦を含め、灰色の瓦、赤色の瓦が混在した形で屋根を覆っていた可能性があります。今後、古写真を参考に神殿等の建物を復元整備する予定ですが、屋根の色についても検討する必要があります。前述のとおり復元するとなった場合は、屋根が赤色と灰色で彩られた趣のある建物を見ることができるかもしれませんね。

※1　尚円王を祀るために建てられた神殿（東江御殿）を中心とする祭祀施設。

※2　長さの単位。約一・八二m。

※3　イヌマキ。建築材として利用される樹木。

①神殿跡地に建つ拝殿（現況）　②内間御殿で採取された瓦の破片

お問い合わせ　文化課　文化財係　☎９４４－４９９８

＼わったー／まちの話題 Topics in the Town

イベントフォトギャラリー

8月4日（水）　愛の贈り物 小中学校へSDGsの書籍寄贈

沖縄県産業資源循環協会青年部会（大城大輔部会長）より、ごみ問題から分かりやすくSDGｓが学べる「ごみから考えるSDGs」の書籍が町内の各小中学校へ2冊ずつ寄贈されました。

青年部会の与那覇壮太さんは「コロナ禍において出前環境講座の実施が難しい状況の中、今できる環境教育として寄贈しました。この本がSDGｓなど環境問題を学ぶきっかけになり、より多くの子どもたちの将来の役に立てればと思います」と話しました。

崎原盛秀町長は「環境問題に対して地球環境を守ろうという思いが詰まっている。ぜひ活用していきたい」、新島 悟教育長は「とても分かりやすく、子どもたちが関心を持って学習出来ると思います」と感謝しました。

8月14日（土）　西原小学校で企業ボランティア協力による校内の環境整備

西原小学校では、コロナ禍で例年PTAが実施する校内美化作業がままならない状況の中、株式会社美善建設（根保直樹代表取締役社長）のボランティアの協力により、環境整備作業が行われました。

小学校職員やPTA有志のみでは行えなかった、土置き場に積まれた枯れ木や枯れ草などの撤去、農具小屋付近の不要物撤去、校内草刈作業など、トラック2台、重機1台を使って従業員6名で１日がかりで行いました。

大庭真由美校長は「猛暑の中、西原小学校の環境整備を快くお引き受け下さり、みなさん笑顔で作業をして下さったことに感謝しかない」とお礼を述べました。

9月9日（木）　沖縄女子短期大学との覚書締結式 待機児童解消に向けて期待

西原町と学校法人嘉数女子学園沖縄女子短期大学（山内彰理事長）による「西原町と沖縄女子短期大学との人材育成プロジェクトに関する覚書」の締結式が行われました。

町の福祉政策における人材事業の一つとして保育士養成に共同して取り組み、町内の保育施設の人材確保・活用が十分に図れるようにすることを目的としています。

主な取り組みとして、沖縄女子短期大学同窓会や各事業者と連携し、同大学に入学を希望する町内の社会人を推薦し、保育士人材の養成につなげていけるよう努めていきます。

崎原盛秀町長は「保育士の確保が厳しい中、西原町の待機児童解消に向けてお力添えを頂けると感謝しています。新たな時代をつくる子どもたちのために、今回の締結が一助になればと期待します」、山内理事長は「保育士養成の実績を活かし、積極的な関わりで協力していきたい」と話しました。

9月10日（金）　愛の贈り物 小中学校へ生理用品の寄贈

公益社団法人沖縄県宅地建物取引業協会女性会員有志の会（又吉悦子会長）より、コロナ禍で生活に困っている家庭の子どもたちへの支援として、町内の各小中学校へ５万円相当の生理用品の寄贈がありました。

女性会員の比嘉美加子さんは「生理用品が購入出来ず困っている子どもたちへの支援として、一日も早く行き渡って欲しい」と話しました。

崎原盛秀町長は「皆さんの思いが子どもたちに伝わるように、また、子どもたちが安心してもらえるように学校現場で有効に活用していきたい」と感謝し、新島 悟教育長は「社会全体で子どもたちを守っていくという皆さんの思いと貴重な贈りものをありがとうございます」とお礼を述べました。

※広報紙に掲載する写真については、撮影時のみマスクを外しております。